

# 国語(現代文)

## 名古屋大学 理学部、農学部、医学部 (前期) 1/2

### <総括>

出題数	現代文 1題	試験時間	45分
<p>人間の本质である共感能力=やさしさの範囲が人間以外の生物まで拡大し、他の生物を食べなくなっていく傾向について論じた文章からの出題。昨年と比べ、文章量は大きく増加したが、文章自体は読みやすいものだった。設問は、昨年と同じく、漢字の読み書き、記述問題4題、内容合致問題が出題された。記述問題は、昨年と比べて記述量がやや減少したうえに、解答の根拠が比較的明確なので、昨年より解きやすかった。全体としての難易度は昨年より易化した。</p>			

### <本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	『増えるものたちの進化生物学』(市橋伯一)
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年は3941字、今年は5303字で1362字増加
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	漢字の読み書き	標準	「甲殻」の書き取りはやや難だが、それ以外は特に難しいものはない。
		問二	記述	やや易	傍線部のある段落とその次の段落の内容をまとめればよい。
		問三	記述	標準	傍線部のある段落とその次の段落の内容をまとめればよい。
		問四	記述	標準	傍線部の前の2つの段落の内容をまとめればよい。
		問五	記述	やや難	幅広い範囲をふまえて解答を作成する必要がある。
		問六	客観	易	本文の内容に合致するものをすべて選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## 国語(現代文)

名古屋大学 理学部、農学部、医学部 (前期) 2/2

### <学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。  
漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。